（平成 30 年 5 月試験研究業務月報）
試験研究課題：高級菌根性きのこ栽培技術の開発

研　究

平成 29 年度マツタケ菌接種箇所の追跡調査

マツタケは、マツタケ菌がアカマツの根に感染し、シロ※を形成することで発生します。

当センターでは、アカマツが生育している周辺の地表をシートで被覆することにより、成長中のアカマツの根を地表に誘導し、これに直接マツタケの菌糸を接種し感染させる試験を行っています。平成 29 年度に 19 箇所で菌糸を接種し、今年度は、これらの箇所でマツタケ菌がマツの根に感染し定着しているかを調査しています。3～6 月と 10～11 月に接種箇所の中心から 10cm 間隔で土壌を採取して、(国研)森林総合研究所でマツタケ菌の量を分析しマツタケ菌の量が増加しているかでマツタケ菌の定着度合いを判定します。

※シロ…マツタケ菌が感染したマツの根とマツタケ菌の塊。マツタケはシロから生える。

マツタケ菌を接種した箇所：白色の菌糸が視認できるが、マツタケ菌かは不明

採取した土壌サンプル：矢印の部分に菌が感染した根が視認できる

農林センター（森林技術センター）